

科目	週時数
古典探究	3 時間

目標	主体的に古文・漢文を読み深めることを通して、わが国の言語の基盤である古典の重要性を理解し、自分や自分を取り巻く社会における古典の意義や価値を考察し、探求する態度を育てる。	
	知識技能	古典に用いられている語句の意味や用法、文の構造、文章の構成に即して内容を的確に捉え、伝統的な言語文化に対する理解を深める。
	思考判断表現	人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。
	主体性協働性多様性	人間の生き方、考え方などについて話し合ったりまとめたりすることで、古典に親しみ、言語文化に対する理解を深め、豊かな人間形成を図る。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	教科書所収文章の読解	(古文) ・登場人物の心情を的確に読み取る。 ・テキストを著した作者のものの感じ方、考え方を捉える。 (漢文) ・語句や句法の意味、用法に注意し、内容を正しく理解する。 ・登場人物と場面の展開を整理し、話の流れを正確に読み取る。
2 学期	教科書所収内容のまとめ ・適宜、問題演習を行う	(古文) ・作品の背景を理解し、資料を適切に利用して内容を理解する。 (漢文) ・語句や句法に注意しながら内容を理解し、他者に説明できるようにする。

授業の形態	一斉授業・グループ学習
教科書	『古典探究古文編』『古典探究漢文編』(大修館書店)
副教材	共通テスト対策 古典完答22
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	文語文法・漢文句法の小テストを授業で実施

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	的確な授業理解のもと、学習の手引の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ、学習の手引の問いを解ける

※80%＝80点を取るための目安。

科目	週時数
国語探究T(設定)	2 時間

目標	実社会において必要となる,文章を論理的に書いたり批判的に読んだりする資質や能力を養う。また,多様な文章・図表などをもとに複数の情報を統合し構造化して考えをまとめたり,その過程や成果を根拠に基づいて表現できる能力を養う。	
	知識技能	実社会に必要な国語の知識・技能に加え,背景となる文化や社会情勢を理解する。
	思考判断表現	論理的,批判的に考える力を伸ばすとともに,複数の素材から自身の考えを立論し,他者との関わりの中でそれを的確に表現する。
	主体性協働性多様性	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに,言語活動を通して他者や社会と関わりつつ,自己の向上を図る。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	教科書所収文章の読解	<ul style="list-style-type: none"> 論理的な文章、文学的な文章を読んで、筆者の着眼点や論理展開、表現の特色を理解する。 教科書所収の文章を素材に言語活動を行い、実践的な論理運用能力を養う。 問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上を図る。
2 学期	教科書所収内容のまとめ ・適宜、問題演習を行う	<ul style="list-style-type: none"> 論理的な文章、文学的な文章を読んで、筆者の着眼点や論理展開、表現の特色を理解する。 教科書所収の文章を素材に言語活動を行い、実践的な論理運用能力を養う。 問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上を図る。

授業の形態	一斉授業,グループワーク等
教科書	『ちくま評論入門』『ちくま小説入門』(ちくま書房)
副教材	共通テスト対策 現代文完答22 共通テスト対策 新しい第3の現代文 集中完答11 イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	小テスト,レポート,課題に沿ったプレゼンテーション等を随時実施。

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	随時実施
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え, 仲間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	的確な授業理解のもと, 読解の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ, 読解についての問いを解ける

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
地理探究	4 時間

目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
	知識技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
	思考判断表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
	主体性協働性多様性	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 第2章 資源と産業 第3章 交通・通信と観光、貿易 第4章 人口、村落・都市	・地形、気候、生態系などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 ・資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。
2 学期	第1部 現代世界の系統地理的考察 第5章 生活文化、民族・宗教 第2部 現代世界の地誌的考察 第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像	・生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 ・世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料を基に、世界を幾つかの地域に区分する方法や地域の概念、地域区分の意義などについて理解する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習 ICTを活用した学習
教科書	『新詳地理探究』(帝国書院)
副教材	『最新地理図表』(第一学習社)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	單元ごとに振り返りを行い、各テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	授業内容の完全理解と大学入試レベルの記述問題を解くことができる
	60%	授業中に取り上げられる重要語句の完全理解と付随する図表問題を理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
数学C	3 時間

目標	ベクトル、平面上の曲線および複素数平面について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。さらに、発展的な問題に対して、既習事項を基に自ら解決する力を育てる。	
	知識技能	数学的活動を通して、ベクトル、平面上の曲線および複素数平面における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。また事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。
	思考判断表現	数学的活動を通して、ベクトル、平面上の曲線および複素数平面における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考察し、表現するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考える。
	主体性協働性多様性	自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし、ICTを活用し、説明したり、議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	○ベクトル ○平面上の曲線 ○複素数平面	○ベクトルの意味およびその演算法則を理解する。また、ベクトルを種々の図形問題に応用することができる。 ○放物線、楕円、双曲線の基本的な性質について理解する。また、曲線の媒介変数表示や、直交座標と極座標の関係及び極方程式について理解する。 ○複素数平面の意味および複素数の演算法則を理解する。また、複素数平面を種々の図形問題に応用することができる。
2 学期	○問題演習	○問題演習を通して、ベクトル、平面上の曲線および複素数平面についての理解を深める。

授業の形態	一斉授業、グループ学習
教科書	『数学C Advanced』(東書 数C 701)
副教材	Hi-PRIME 数学C(東書) チャート式基礎からの数学C(数研)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	章ごとに問題演習の時間をとり、応用力を身につける

到達目標	①定期試験	教科書の内容を完全に理解した上で、応用問題にも取り組む
	②小テスト	定期的に小テストを行い、自分の理解度を判断する
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の練習問題B
	60%	教科書の練習問題A

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
数学探究Tr(設定)	5 時間

目標	既習事項について、数学における概念や原理・法則について掘り下げ、理解を深める。また、諸事象について多面的に捉え論理的に思考する力を育てる。さらに、数学的活動を通して創造性を培うとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。	
	知識技能	高校数学の総復習を通して、その履修内容の理解を深め、知識、技能を確かなものにする。また事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。
	思考判断表現	問題演習および課題学習を通して、論理的に考察し表現するなど、数学的な見方や考え方を身につける。さらに、事象を数学的・図形的にとらえ、論理的に考察し、表現するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考える。
	主体性協働性多様性	数学的活動を通して、考え方や体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを発展的な事象の考察に活用しようとするができる。自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○数と式 ○関数と方程式・不等式 ○式と証明 ○整数の性質 ○場合の数・確率 ○図形の性質 ○図形と式 ○三角比・三角関数 ○指数関数・対数関数 ○微分・積分 ○数列 ○ベクトル ○データの分析 ○統計的な推測 	<ul style="list-style-type: none"> ○高校数学の履修内容の習熟。 ○定理・公式の本質的理解。 ○諸事象の体系的な理解。 ○論理的思考力および数学的・図形的思考力の育成。 ○問題解決能力の育成。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○問題演習 	<ul style="list-style-type: none"> ○高校数学の総仕上げ。

授業の形態	一斉授業、グループ学習
主たる教材	ニューグローバルTOP 数学 I+II+A+B+C (東京書籍) 独自教材(プリント)
副教材	攻略! 共通テスト Pick Up 数学I+A、II+B+C(東京書籍) 共通テスト実践問題パックV 数学 I・A35、 数学 II・B・C35(駿台文庫)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	演習の時間とその内容を説明する時間を多く設定する

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	ニューグローバルTOPの*つきTryの完全理解
	60%	ニューグローバルTOPのReview、Exerciseの完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
物理	3 時間

目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。	
	知識技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めることで、自らで課題を見つけ、考え、見通しをもって主体的かつ意欲的に観察、実験などに取り組む。
	思考判断表現	自然の事物・現象に関する基本的な原理・法則を系統的に理解し、自然を探究する能力と態度を身につけ、他科目の学習成果とも関連させて、自然界の事物・現象を分析的、総合的に考察する能力を育成する。
	主体性協働性多様性	物理的な事物・現象に対して、興味・関心を高め、知的好奇心をもって問題を見出し、主体的に解決しようとする意欲を高める。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第4編 電気と磁気 (電流と磁界) 第5編 原子 (電子と光、原子と原子核、物理学が築く未来)	<ul style="list-style-type: none"> 光や電気や磁気に関する現象、更には電子、原子及び原子核に関する現象を観察などを通して探究し、光と電気と磁気に関する基本的な概念や原理・法則を系統的に理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようになる。 授業で扱うプリントが終わったら、もう一度全体を振り返り、一歩深い根拠の理解に至る。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 第1編～第5編の総復習(「特集」と「探究」) 問題演習(「章末問題」) 	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察を通して、物理の原理や法則を深く理解するとともに、装置の工夫やデータの扱い方についても理解を深める。 問題演習を通して、物理法則が成り立つ条件や、数学的な処理についての理解を深める。

授業の形態	一斉授業
教科書	『物理』(東京書籍)
副教材	セミナー物理(第一学習社)、パワーマックス共通テスト対応模試(Z会編集部)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	「セミナー物理基礎+物理」の発展問題の完全理解
	60%	「セミナー物理基礎+物理」の発展問題と『物理のStairs』(問題プリント群)の理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
化学	3 時間

目標	化学は物質について学習する教科であることを理解し、化学的な事物・現象に関する基本的な原理・法則を理解するとともに、身の回りの事物・現象を化学的に探究する方法を身につける。	
	知識技能	基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につけることができる。化学現象について、学習した知識を基に、定量的かつ定性的に扱うことができる。
	思考判断表現	実験結果のデータや表を基にして、化学現象を客観的にとらえることができる。化学現象について、原子・分子レベルで考え、他者にわかりやすく説明できる。
	主体性協働性多様性	目的意識をもって観察、実験を行ない、化学的に探究する能力と態度を身につけることができる。主体的に課題に取り組むことにより、興味・関心を高めることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 有機化学(脂肪族化合物) 有機化学(芳香族化合物) 合成高分子化合物について 天然高分子化合物について 	<ul style="list-style-type: none"> 異性体の数を正確に求められるようにする。 アルコールの酸化など基本反応を理解する。 ベンゼン環を有する芳香族化合物の基礎知識を身につけ、各性質に応じた分類ができる。 日常生活に関連する高分子化合物の合成法・性質を理解する。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 有機化合物の構造決定の問題演習 化学結合と結晶の問題演習 化学反応の種類について 総合問題演習 	<ul style="list-style-type: none"> 有機化合物の構造決定について演習を重ね、身につけた知識をアウトプットし、知識の定着を図る。 化学結合について、問題演習からより理解を深める。 化学反応を分類し、各化学反応の理解を深める。 問題演習により、化学的に探究する能力と態度を身につける。

授業の形態	一斉授業
教科書	『化学』(数研出版)
副教材	セミナー化学(第一学習社) サイエンスビュー化学総合資料(実教出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	「セミナー化学」の問題の完全理解
	60%	教科書演習問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
生物	3 時間

目標	生物や生物現象についての観察, 実験などを行い, 自然に対する関心や探究心を高め, 生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに, 基本的な概念や原理・法則を理解させ, 科学的な自然観を育成する。	
	知識技能	生物や生物現象について, 基本的な概念や原理・法則を理解する。
	思考判断表現	多種多様な生物現象についての観察・実験などを行い, それらの探究活動を通して, 生物や生物現象に関する体系的な知識を得たり, 生物学的に探究する能力や態度・方法を身につける。
	主体性協働性多様性	自然現象に対して興味・関心を高め, 疑問点を主体的に見出そうとする意欲をもつ。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 動物の反応と行動 植物の成長と環境応答 生態系のしくみと人間の関わり 	<ul style="list-style-type: none"> 植物や動物は環境の情報を受容し, これに応じて生活することを理解する。生得的行動と習得的行動のしくみを理解する。 生物群集の成り立ちと, そのなかで多様な種が共存するしくみについて理解する。 生態系と生物多様性について理解する。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 生物に関する探究活動 	<ul style="list-style-type: none"> 生物全般にわたって, 基本事項の確認と内容理解を深めるだけでなく, 観察や実験などの探究活動を通して, 思考力や判断力を身につける。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『高等学校 生物』(第一学習社)
副教材	最新図説生物(第一学習社) ニューグローバル生物(東京書籍)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	調べ学習, 実験, 観察を取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え, 中間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	「ニューグローバル生物基礎・生物」の発展問題の完全理解
	60%	「ニューグローバル生物基礎・生物」の基本問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
体育	3 時間

目 標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。	
	知識技能	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基本的な事項を理解し、知識を身につける。また、自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の技能を高める。
	思考判断表現	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫する。
	主体性協働性多様性	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら計画的に運動をしようとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	体づくり運動、新体力テスト *組体操(徒手体操)、体育祭の練習 体育理論 テニス バレーボール ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を通して自分や仲間の中から心や体の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する。 ・様々な体の使い方を学び、各自で種目を選択し互いに協力・補助し、連続技に挑戦する。 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
2 学期	体育理論 バスケットボール サッカー 卓球 バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> ・運動技術と運動技能の違いを知り、それぞれの運動種目に応じた運動技術について理解する。 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋める動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『高等学校保健体育』(第一学習社)
副教材	ステップアップ高校スポーツ(大修館)
評価の方法	実技試験と体育レポート、定期試験(種目の歴史とルール)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	実技では規定の技能を正確に行う。筆記試験はルールや歴史を理解する。
	②実技テスト	競技の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	規定の服装で授業を受けること
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
英語コミュニケーションⅢ	4 時間

目 標	日常的・社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、 1. 必要な情報を聞き・読み取り、話・文章の展開や話し手・書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。 2. 多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝え合うことができ、会話を発展させることができる。また、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができる。 3. 多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる。
------------	--

育 っ た い 力	知識技能	まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から情報を得て、整理することができる。 日常生活についてのまとまりのある内容をよく理解することができる。 専門的内容を含む話や会話を聞いて、主題と詳細情報を区別して理解することができる。
	思考判断表現	書き手の意図を理解して、自分の意見と比較しながら批判的に読むことができる。 日常生活の話題について、構成を意識して文章を書くことができる。 自分の意見や感想を論理的に整理し、説得力のある文章を書くことができる。
	主体性協働性多様性	日常生活の出来事を説明したり、用件を伝えたりすることを、簡潔かつ適切に行うことができる。 専門的内容を含む話題について、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。 話し合いの場ではリーダーとして意見の集約をすることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	Unit 1 What thinking and study habits can help us succeed? Unit 2 How can we use AI to improve education? Unit 3 What do folktales tell us about human values? Unit 4 What items would you place in a time capsule? Speaking Strategies 1 Writing Strategies 1	以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 〈学習方法／仕事に有効な考え方・習慣について考える〉 〈AIの進化と活用、社会への影響を考える〉 〈文化人類学の観点から、世界の民話の特徴や類型を学ぶ〉 〈「タイムカプセル」に残された物から何を学べるか、未来に向けて何を残したいかを考える〉
2 学 期	Unit 5 What are the rewards and challenges of living in a different culture? Unit 6 How can art be made accessible to all? Unit 7 How can we preserve life below water? Unit 8 Is there anything money can't buy? Speaking Strategies 2, 3 Writing Strategies 2, 3	以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 〈様々な事例から、異文化の中で暮らすことの意義と困難について考える〉 〈だれもが楽しめる芸術のり方について考える〉 〈持続可能な社会のための資源の開発や養殖の取り組みについて知る〉 〈スポンサーシップや命名権などの金銭と倫理の問題について知る〉

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	Enrich Learning English Communication Ⅲ (東京書籍)
副教材	Praxis Level 4 (Z会) 2025 共通テスト対策【実力完成】直前演習 英語(リーディング)40minutes×14 (ラーズ)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題を全て理解、暗記している
	60%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題を全て理解している

※80%＝80点を取るための目安。

科目	週時数
論理・表現Ⅲ	2 時間

育 て た い 力	目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。
	知識 技能	まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から必要な情報を得ることができる。 筆者の意図などを正確に理解して、文章を批判的に読むことができる。 日常生活についての情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を理解することができる。 複数の話題が含まれた話や会話を聞いて、主題と詳細情報を区別しながら理解できる。
	思考 判断 表現	日常生活の話題についてある程度まとまりのある文章を書くことができる。 効果的な事例を取り入れながら、自分の意見や感想を論理的に整理し、複数の段落で書くことができる。
	主体性 協働性 多様性	日常生活の出来事について説明したり、用件を伝えたりすることができる。 英語のネイティブスピーカーの先生と、本や映画など馴染みのある話題であれば、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	L1 The Easiest City to Live in L2 The Value of Libraries L3 Improving Our Town L4 Free Time L5 New Sports and Entertainment L6 Enriching Our Lives L7 A Common Concern L8 Maintaining the Ecosystem	以下の項目を活用した円滑な言語活動が行えるようにする。 ・動詞(句) ・助動詞 ・副詞 ・分詞構文 ・形容詞／副詞 ・比較表現 ・関係詞・前置詞
2 学 期	L9 A Sustainable Lifestyle L10 The Evolving Japanese Workforce L11 Inside Fairtrade L12 Volunteering to Help L13 Trends in Studying Abroad L14 English as an Official Language L15 Understanding Diversity	以下の項目を活用した円滑な言語活動が行えるようにする。 ・前置詞 ・準動詞 ・接続詞 ・仮定法 ・その他

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	be SMART English Logic and Expression III (いいずな書店)
副教材	三訂版 入試必携英作文 Write to the Point本冊・詳解(数研出版) 2025 共通テスト対策【実力完成】直前演習 英語(リスニング)30minutes×7 (ラーンズ)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到 達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題を全て理解、暗記している
	60%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題を全て理解している

※80% = 80点を取るための目安。

科目	週時数
聖書(設定)	1 時間

目標	人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び、グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。	
	知識技能	歴史的、社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探究する。
	思考判断表現	自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り、いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが、同時に有意味である自己肯定感を促す。
	主体性協働性多様性	異なった考えを積極的に捉え、これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで、全体の共同性を確認する。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・クリュニー修道院 ・スコラ学 ・マリア崇敬 各福音による発展 ・教皇のバビロン捕囚 ・ウィクリフとフス ・東西教会の分裂 ・東方正教会 	<ul style="list-style-type: none"> ・聖書を学ぶ、必要性を知る。 ・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。 ・3校祖と3L精神を学び、学院生としての自覚を促す。 ・教会の礼拝と、学校の礼拝の違いを知る。 ・イエス・キリストの生涯と、新約聖書の概観を知る。 ・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。 ・本来あるべき、神との関係性について知る。 ・本来あるべき、隣人との関係性について知る。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・エラスムス ・ルネサンスとその時代 ・エックハルトとフロアテ ・宗教改革 ルター ・改革派の体系化 カルヴァンによる 	<ul style="list-style-type: none"> ・新約聖書の翻訳と、人文主義的立場を学ぶ。 ・神なき文化から魂の救いを考える。 ・ドイツとオランダの神秘主義思想を知る。 ・塔の体験、95ヶ条の提題を学ぶ。 ・スイスの宗教改革の特質を学ぶ。

授業の形態	一斉授業
主たる教材	キリスト教の歴史
副教材	なし
評価の方法	定期試験、提出物、小テスト による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
3L希望学 I	1 時間

目 標	ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。	
育 っ て たい 力	知識 技能	世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。
	思考 判断 表現	個人またはグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。
	主体性 協働性 多様性	自分の興味関心や希望進路に沿って設定した課題について、その解決のために何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学期	「課題研究」	個人の興味関心に応じて課題を設定し、課題探究を進め、論文にまとめ発表する。 また、探究活動の成果を外部コンテストでの発表に向けて準備を進める。
2 学期	「課題研究」	これまでの探究活動を踏まえ、社会課題にどのように向き合い、その解決のためにどのように役割を果たすかについて考えることを通して、次の進路に向けて自らの考えを表現する。

授業の形態	個人の探究活動 ワークショップ
教科書	なし
副教材	なし
評価の方法	学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	なし
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする